

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 特別支援教育

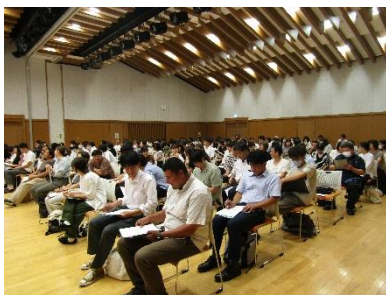
「支援の必要な児童生徒を巻き込む授業改善～特別支援教育の視点から～」

【講師】 桃山学院教育大学教授 松久 眞実先生

8月25日（金）、桃山学院教育大学教授の松久 眞実先生をお迎えし、研修講座「特別支援教育」を実施しました。講義では、特別支援教育の視点からの授業改善について、実践動画を交えながら具体的にご指導いただきました。

初めに、普通の授業にユニバーサルデザインの視点を加えることが大切であるという話がありました。「ユニバーサルデザインの視点を加える」とは、ハード面（視覚支援、スケジュールの提示、教室の構造化等）とソフト面（褒め方・叱り方、指示の出し方、教師への信頼・尊敬等）の両方を工夫することであり、どちらかが欠けてはよい授業にならないことを改めて確認しました。

次に、実践動画から授業中の配慮（手立て）について考えました。その実践動画から「視覚支援をすること」、「ジェスチャーやアイコンタクトなどの非言語を活用すること」で余計な指示を減らすことができ、結果的に静寂の時間が生まれ、さらには刺激を減らすことにもつながることが分かりました。また、授業でのふりかけ（工夫・手立て）として、興味・関心を引きつける提示物、わくわくするめあて、板書の工夫（かくす、穴あけクイズ、わざと間違える、黒板の使い方など）、子どもの実態に合わせて課題レベルを変えることが大切であることを学びました。



最後に好意に満ちた語りかけと悪意に満ちた語りかけについてお話をいただきました。「マイナスの言葉をかけ続けると、ぎすぎすしたクラスとなるが、プラスの言葉をかけつづけることで暖かいクラスとなる」という話から我々が日頃子どもたちにかけている言葉を見直し、プラスの言葉がけを意識することが暖かいクラスづくりにつながることを改めて学びました。

本講座で学んだことを各校・園で還流していただくとともに2学期からの実践に活かしていただきたいと思います。

アンケートより【一部抜粋】

- ・特別支援教育の視点から授業づくりについて学ぶことができました。視覚支援で見て、何をするか分かる工夫や非言語、静寂の時間をつくることなどソフト面、ハード面のどちらも取り入れていくことが大切であると分かりました。また、声のトーンを変えて、何が大事なのか分かるようにしていくことの大切さも分かりました。(小)
- ・授業中の配慮として、中学校の現場でも使える内容がたくさんあると感じた。特別支援対象の生徒だけでなく、全ての子どもに通じることとして、言葉ではなく「非言語・アイコンタクト」を使うと落ち着かせることができ、安定した教室ができると分かりました。(中)
- ・保健室へやってくる子を思い浮かべながら、お話を聞かせていただきました。保健室でも実践できそうなことが多く、とても参考になりました。特に好意に満ちた言葉がけは、保健室で最も意識していきたいと思いました。(小)